

のあたりが最も難しい部分ではないかと思われる。詳しくは各マニュアルをご覧いただきたい。

使ってみる

いよいよ電源を入れてみる（具体的なソフトの組み込み方法や起動の仕方は詳しくマニュアルに書いてある）。

まず立ち上げると、現在位置を出発点にするか、出発地点をキー入力するかを聞いてくる。これは実際船の上でGPSを繋いだ状態で使うのか、あるいは、自宅にパソコンだけ持ち帰って航海計画を練るのか、の違いとも考えればいだろう。

このようにパソコンを使ったプロッターシステムならば、ウェイポイントを入力したり、操作の手順を覚えたりといった作業が自宅でじっくりと行えるのも大きなメリットだ。

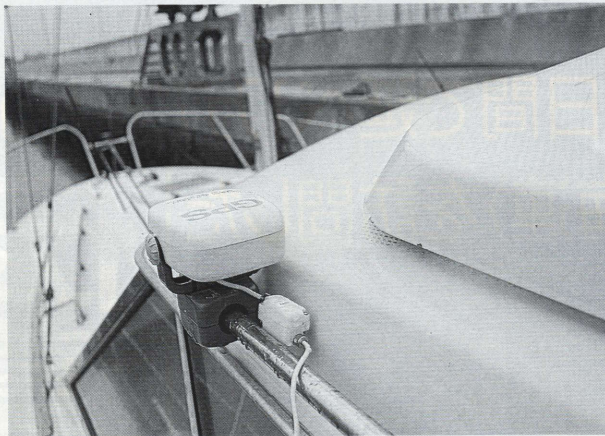
「なび助」の最大の特徴である海岸線を表示してみると、作者の活動する大阪湾の子細な海岸線が表示される。表示には多少時間がかかるが、ご本人の弁によるとQuick BASICという言葉を使ってプログラムが組まれているためか、とのこと。これは大阪湾という埋立地だらけの複雑な海岸線を有する地域であることも原因であるかもしれない。

画面の拡大も可能で、拡大すると、その海岸線の精密さにさらに驚かされる。これだけ精密な海岸線を描画するのだから時間がかかるのもうなずける。このあたりの表示スピードが気になる方は、もっとおおざっぱな海岸線データを自作するのもよいだろう。海岸線情報は別ファイルになっているから、それぞれの活動地域の海岸線データを自作して持ち寄れば日本中をカバーすることも夢ではないし、さらに各地のマル秘情報なども織り込んでネットワークでやりとりすれば、立派に「ブルーウォーター通信」になる。このあたりも自作ソフトの楽しみではないだろうか。

GPSから入力されたポジションは画面にプロットされるほか、画面右端にその他のデータとともに数字でも表示される。また目的地の登録も可能。画面中心位置を変えることもできるが、前述の描画速度の問題もあり、基本的には航海範囲をすべて画面上に表示させておいて、画面をあまり切り替えずに使用するほうが快適なようだ。

プロットされた航跡は別ファイルに記憶させることができる。これもパソコンを利用する強みで、レース後、ビールなどをグビグビやりながら、持ち帰ったパソコンの画面を見ながら、その日のレースのコース

<マリネスト7>ではJLR-4400のアンテナ部をキャビン側面のハンドレールに設置している



→電源アダプターとRS232Cケーブルを繋ぎ、これをコンピュータ側のポートに接続する

→電源アダプターの中身。若干の改造を要するが一度繋いでしまえばOK。25本もあるピンのうち、なび助に必要なのは2本

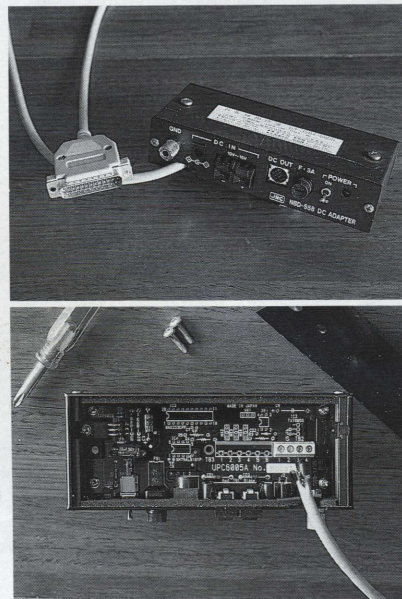
取りを肴にワイワイ騒ぐことができる。また各艇のデータを重ね合わせてレース運びを解析するなどといったソフトを作ることもでき、レース派にも見逃せない。

現在の「なび助」バージョンは1.0とのことで、今後、海岸線を表示したままのスクロールなど、さらに高度なバージョンアップも期待したいところだ。

注意点

基本的にパソコンは振動や水には弱い代物で、ヨットの上で使うようには設計されておらず、そのあたり、注意が必要である。ただ、実際は世界一周レースに出場するような艇にはパソコンが積まれているし、レポーターの私自身も現在乗っているレース艇にはIBMのノートパソコンを積んでいるが、一度ハードディスクがクラッシュしただけでわりと丈夫である。耐久実験として、デスクトップタイプのパソコンをモーターボートに積んで三浦半島〜八戸までの航海を行ったこともあるが最後まで正常に動いていた。このように、現在はその耐久性も格段に向上してはいるようだが、海上で使用して故障してもメーカーの保証は受けられないかもしれないので、そのあたりは覚悟して使っていただきたい。キーボード用の防塵カバーなども市販されており、ある程度の防水性がありそうだ。試してみるのもいいだろう。

またこれは、市販のプロッターにもいえることだが、実際の航海には海図との併用が必要なのはいうまでもない。



NMEA0183信号の例

各航海機器からはさまざまな情報が出力されるが、このデータに一定のルールを決めることで各機種間の接続を可能にしている。

データには色々なセンテンスがあり、今回のソフトではRMCセンテンスと呼ばれる一連のデータを取り込んでいる。

内容は、
\$GPRMC, hhmmss, A, IIII, II, a, yyyyy, yy, a, xxx, xx, ddmmyy, xx, a, xx<cr><lf>

というようにずらずらと入力されます。

意味は次のとおり

\$GPRMC: データの区分を見分ける。

hhmmss: 時間 (グリニッチ時)

A: A=データ有効、V=データ無効

IIII, II: 緯度値

a: N/S

yyyyy, yy: 経度値

a: E/W

xxx, x: 測定速度

xxx: 測定真方位

ddmmyy: 日付

xx: 磁気コンパス補正量

a: 磁気コンパス補正量の向き (E/W)

xx: チェックサム (データに誤りがないか)

<cr>: データ終わり

<lf>: 改行